

JHF REPORT



PGアジア・オセニア選手権、初代女子選手権者となった平木啓子。撮影：多賀純一（12-13ページに報告を掲載）

2024年度定時総会を開催しました

6月18日（火）、TKP銀座ビジネスセンター6A会議室において、全国47の正会員（都道府県連盟）の参加を得て、2024年JHF総会を開催しました。

コロナ禍以後も、会場とバーチャル両方の参加とし、参加者のうち出席は30名（会場出席19名、バーチャル出席11名、委任状提出1名を含む）、議決権行使が17名（バーチャル1名）でした。

決議事項ならびに報告事項は次のとおりです。

【目的事項】

報告事項1：2023年度事業報告

報告事項2：2023年度決算報告・監査報告

決議事項1：貸借対照表及び損益計算書（正味財産増減計算書）の承認：
賛成46、反対1、棄権0で承認された

報告事項3：2024年度事業計画

報告事項4：2024年度収支予算

報告事項1の事業報告と、報告事項2の決算報告については、本レポートの2～3ページでご覧ください。

総会議事録は、確定後にJHFウェブサイトの「情報公開について」のページに掲載します。



今年度総会もバーチャル出席を継続し、47正会員が参加。

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

JHFの2023年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2023年度事業報告」より

I 概要

2023年度は新型コロナウイルスの流行がおさまり、飲食店の利用や旅行等の経済活動が戻ってきました。各地のエリアでのフライトもコロナ前の様になってきましたがフライヤーの高齢化に伴う会員数の減少は続いています。若手フライヤーを増やすことが大きな課題です。JHF総会、理事会、委員会についてはリモート参加も利用したハイブリッド型の会議が一般的になり、経費の削減に効果を示しています。

安全セミナーの開催等で一層安全に対する啓蒙活動を進めていきます。

1. 収支の現状

2023年度は有効会員数が前年比5%減少しましたが、会員登録数は1.4%増加したこともあり予算より会費収入が増えました。総会のオンライン参加協力による総会開催費用の節減はありましたが、パラグライディング教本の増刷、20年ぶりに活動実績の発行もあり運営基金積立預金を取り崩しています。システム効率化による固定費削減等を検討し堅実な運営を進めます。

2. 組織運営等

1) 教員検定員による教員助教員更新講習会を15カ所で開催、71名が受講(PG:65名、HG:6名)
2) レスキューパラシュートリパック更新講習会を6カ所で開催、21名が受講
3) 教員技能証実技検定を8名が受検(PG:5名、HG:3名)、学科検定については集合研修検定を2月26日に開催、8名受検(PG:8名、HG:0名)
4) 上級タンデム検定会を開催 5回
5) 第10回JHFフォトコンテストを開催
6) 1月14日、福岡聖子さん安全セミナーを開催
7) 2022ハンググライディング・パラグライディングJHF活動実績発行

3. 特記事項

1) 第45回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛 7月29日~30日 滋賀県彦根市松原水泳場周辺
2) 一般財団法人日本航空協会の第49回航空スポーツ教室「スカイ・キッズ・

プログラム」 8月19日~20日 東京都ハング・パラグライディング連盟が協力

3) 一般財団法人日本航空協会「航空スポーツを広める会議」イベント 3月30日 東京都三田図書館内 パラグライダーVR体験で参加

4) 後援体験会

○4月15日~16日 日本学生フライヤー連盟関東支部 ハンググライダー、パラグライダー体験会

○10月28日~29日 栃木県みかも山公園 パラグライディング地上体験会

○12月3日 スカイフェスタ2023 in 筑後大堰 パラグライダー体験会

5) 第28回スカイスポーツシンポジウムを協賛

12月2日 東京都立産業技術高等専門学校(荒川校舎) 汐黎ホール

II 事項別状況

1. 組織

1) 会員数

正会員47 フライヤー会員5,932名(2024年3月末有効登録数) 賛助会員9

2) 役員構成(2024年3月末現在)

理事6名(内会長1名、副会長1名)

監事1名

2. 会議等の開催

1) 総会

2023年6月通常総会

開催通知: 2023年4月5日(水)

開催日: 2023年6月13日(火) 13:00~16:15

開催場所: TKP銀座ビジネスセンター5A(東京都中央区銀座)

議案:

報告事項1: 2022年度事業報告について 報告事項2: 2022年度決算報告について 決議事項1: 貸借対照表及び損益計算書の承認について 報告事項3: 2023年度事業計画について 報告

事項4: 2023年度収支予算について 決議事項2: JHF会員会費規約の改正について 決議事項3: JHF役員選任について

2) 理事会 () 内は出席者数

第1回: 5月12日(理事7、監事2内リモート6) 第2回: 6月6日(理

事7、監事1内リモート8) 第3回: 6月13日(理事6、監事1内リモート0) 第4回: 7月28日(理事5、監事1内リモート4) 第5回: 10月30日(理事6、監事1内リモート5) 第6回: 2月6日(理事6、監事1内リモート6) 第7回: 3月22日(理事6、監事1内リモート3) ○文書理事会 4月18日、6月15日、7月10日、8月24日、9月6日、2月22日、3月5日

3) 委員会

■ハンググライディング競技委員会 10月17日、10月29日他、競技会開催時に実施

■パラグライディング競技委員会 競技会開催時に実施

■補助動力委員会

4月14日、5月15日、5月16日、6月27日、1月25日、1月26日

■教員・スクール事業委員会 10月16日、3月5日、3月7日

■安全性委員会 6月22日、12月12日

■制度委員会 7月14日、1月10日

■ハングパラ振興委員会 5月31日、10月25日、1月17日

■役員選任実行委員会 5月10日、6月7日、6月21日

■委員長理事合同会議 3月15日

各委員会はリモート会議を中心に、SNSや電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

1) 普及振興活動

○JHFレポートを発行(4月、7月、11月、1月)*独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています。

○都道府県連盟事業費の交付

○日本学生フライヤー連盟へ助成金交付

○Red Bull X-Alps出場選手へ助成金交付

2) フライヤー会員登録

新規・更新登録数: 2023年度4,756名
2021年度4,692名

3) 技能証発行 () 内は2022年度
 ハンググライダー110枚 (105枚)
 パラグライダー810枚 (715枚)
 モーター・パラグライダー 9枚 (3枚)
 レスキュー・パック認定証36枚*新規
 9・更新27

4) 競技会の主催・公認・後援
 ハンググライディング11件 (内FAIカテゴリー1・2: 7件)
 パラグライディング25件 (内FAIカテゴリー1・2: 1件)
 ハンググライディング・パラグライディング同時開催1件

5) 競技会の開催
■ハンググライディング
 ○クラス I 日本選手権 2023年3月17日～21日 茨城県石岡市板敷エリア 参加45名 日本選手権者: 田中元気 女子日本選手権者: 櫻井さやか
 ○クラス V 日本選手権 2023年3月30日～4月2日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加15名 日本選手権者: 板垣直樹
 ○ハンググライディングシリーズ (参加人数77名) 1位: 田中元気 女子1位: 野尻知里
 ○ハンググライディングフライトコンテスト [ストレートディスタンス] クラス V-1位: 板垣直樹 (175.06km)

クラス I-1位: 田中元気 (184.18km)
 [アウトアンドリターン] クラス V-1位: 松田隆行 (130.45km) クラス I-1位: 馬場峻司 (98.41km) [トライアングル] クラス V-1位: 松田隆行 (127.12km) クラス I-1位: 石坂繁人 (80.8km) [デュレーション] 1位: 松田隆行 (11:12)
■パラグライディング
 ○日本選手権 2023年3月17日～21日 和歌山県紀の川市紀の川エリア 参加70名 日本選手権者: 岩崎拓夫 女子日本選手権者: 四方純
 ○アキュラシー日本選手権 12月2日～3日 静岡県富士宮市猪之頭エリア 参加40名 日本選手権者: 岡芳樹 女子日本選手権者: 伊藤まり子
 ○ジャパンリーグ (参加人数167名、成立大会7) [オープンクラス] 1位: 橋本耕一 女子1位: 山下敦子 [スポーツクラス] 1位: 杉山卓也
 ○ジャパン2リーグ (参加人数143名、成立大会3) [総合] 1位: 齊藤光秋 女子1位: 鈴木彩 [チーム] 1位: ポンコツ
 ○クロスカントリーリーグ (48名 10km以上647本) 1位: 中川喜昭 (398.18km) 最長フライト: 阿知波広和 (131.1km)

○アキュラシージャパンリーグ (参加人数62名、成立大会4) [スクランチクラス] 1位: 岡芳樹 女子1位: 伊藤まり子 [ハンディキャップクラス] 1位: 岡芳樹 [ジュニアクラス] 1位: 花田瞬 [チーム] 1位: 丹バラA
 6) スクール・エリア情報の収集及び公開
 ○スクールサイト登録校53件
 ○エリア情報掲載176件
 7) 海外関係団体活動
 ○CIVL総会 2024年2月26日～29日 大韓民国+リモート (ZOOMミーティング) 出席者: 岡芳樹 (デレゲイト)、牟田園明 (オルタネット、リモート)
 8) 世界選手権等へのチーム派遣
 ○第23回FAIクラス I / 第9回FAIクラスVハンググライディング世界選手権 参加選手: 12名 8月6日～19日 北マケドニア
 ○第18回FAIパラグライディング世界選手権 参加選手: 5名 5月20日～6月3日 フランス
 ○第12回FAIパラグライディング・アキュラシー世界選手権 参加選手: 4名 10月20日～28日 ブルガリア
 9) その他
 ○機体型式登録 0件 (PG/HG)
 ○機体情報登録 0件 (PG/HG)

2023年度決算報告より

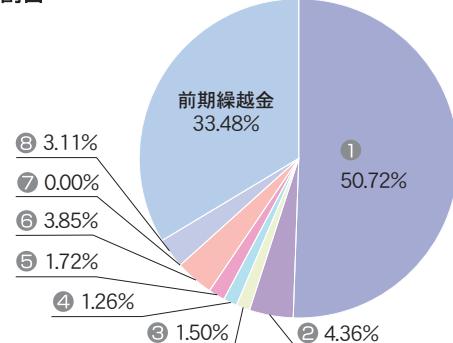
収入 (単位:円)

①会費等	40,616,529
②技能証の発行に基づく収入	3,490,000
③競技に関する収入	1,197,500
④教本等の頒布に伴う収入	1,009,000
⑤検定会参加費	1,374,000
⑥補助金	3,086,290
⑦機体登録費	0
⑧その他	2,493,255
前期繰越金	26,805,722
合計	83,824,679
特定試算取崩	3,752,383

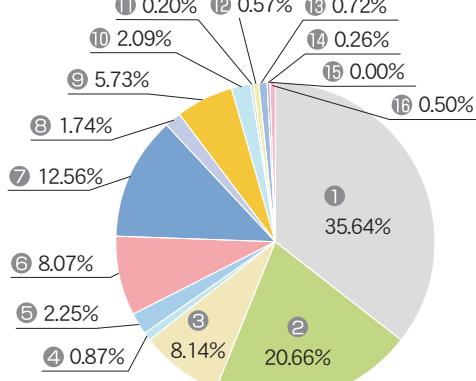
支出 (単位:円)

①会員サービスのために	20,580,431
②JHFの維持運営のために	11,928,052
③都道府県連盟の補助のために	4,702,022
④公益事業の推進のために	500,000
⑤世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	1,300,049
⑥広報・普及活動のために	4,657,896
⑦日本選手権や国体デモスポーツのために	7,253,569
⑧競技のために	1,005,696
⑨よりよい教習環境のために	3,307,670
⑩委員会活動のために	1,205,450
⑪補助活動のために	112,630
⑫学生の補助のために	331,940
⑬事故調査や安全のために	412,922
⑭海外との交流のために	148,397
⑮制度のために	0
⑯総会のために	290,970
合計	57,737,694

収入の割合



支出の割合



2023年度の委員会活動

2024年JHF総会資料「2023年度委員会活動補足」より

ハンググライディング競技委員会

委員長：牟田園 明

1) ルールブックの改訂

2) 委員会ホームページの運営

公認大会の情報、ハングシリーズ大会のエントリー情報の更新は随時実施

3) 2023年ハンググライディング・クラス1日本選手権開催 茨城県板敷エリア 2023年3月17日～21日 45名参加 タスク3本成立 日本選手権者：田中元気、2位名草慧、3位鈴木博司 女子日本選手権者：櫻井さやか

4) 2023年クラス5日本選手権開催 茨城県石岡市足尾山エリア 2023年3月30日～4月2日 15名参加 タスク2本成立 日本選手権者：板垣直樹、2位櫻井大朗、3位岡田伸弘

5) クラス1&5世界選手権（北マケドニア、クルシエボ 8月6日～19日）に選手派遣 クラス1:42位鈴木由路、49位小高史郎、52位氏家良彦、54位砂間隆司、67位名草慧、70位鈴木博司、80位野尻知里（女子3位）、国別11位 クラス5：6位板垣直樹、10位岩崎正芳、14位櫻井大朗、18位山口裕之、23位松田隆至、国別3位

6) ハンググライディングシリーズ管理運営 参加人数77名 [総合] 1位田中元気、2位鈴木博司、3位大門浩二 [女子] 1位野尻知里、2位櫻井さやか、3位内田秀子 [クラス5] 1位板垣直樹、2位岩崎正芳、3位古坂学俊

7) フライトコンテストの運営 [ストレートディスタンス クラス1] 1位田中元気184.18km、2位小高史郎181.62km、3位名草慧177.64km [ストレートディスタンス クラス5] 1位板垣直樹175.06km、2位岡田伸弘122.81km、3位富原淳115.78km [アウトアンドリターン クラス1] 1位馬場峻司98.41km、2位鳥羽岳太84.68km、3位大野洋64.43km [アウトアンドリターン クラス5] 1位松田隆行130.45km、2位古坂学俊111.45km、3位宍戸俊之94.61km [トライアングル クラス1] 1位石坂繁人80.8km、2位大山真哉58.14km、3位服部良亮56.03km [トライアングル クラス5] 1位松田隆行127.12km、2位山口裕之

98.46km、3位山本剛86.25km [デュレーション] 1位松田隆行11:12、2位児玉智雅10:00、3位那須健太9:06

8) 各種大会のJHF公認および後援申請に対する審議および承認

9) SNSによる情報発信

10) 競技レベルの向上を目的とした事業「日本ハンググライディング競技者育成プログラム」の運営

(ア) ハングシリーズ大会の運営支援

(7月：山形県十分一山エリア、11月：静岡県七曲エリア)

(イ) スポーツクラス大会の開催(2023年2月：茨城県板敷山エリア、9月：茨城県足尾山エリア)

(ウ) 競技練習会の開催(2023年10月、静岡県七曲エリア)

(エ) 上級者向けトレーニングキャンプの開催(2023年3月：茨城県足尾山エリア)

(エ) Webセミナーの開催(10月、11月)



北マケドニアでのクラス1&5世界選手権に選手を派遣。

パラグライディング競技委員会

委員長：岡 芳樹

1) ルールブックの改訂

2) WEB事務局・ホームページ管理

3) 第18回パラグライディングXC世界選手権へ選手派遣(男子4名、女子1名) フランス、CHAMOUX-SUR-GELON 5月20日～6月3日 49か国、149名参加(内女子14名) [総合]

1位Maxime Pinot(フランス)、2位Honorin Hamard(フランス)、3位Pierre Remy(フランス)、48位小林大晃、62位平木啓子、79位上山太郎、88位廣川靖晃、148位成山基義 [女子] 1位Meryl Delferriere(フランス)、2位Constance Mettetal(フランス)、3位Nanda Walliser(スイス)、5位平木啓子 [国別] 1位フランス、2位イギリス、3位北マケドニア、14位

日本

4) 第12回アキュラシー世界選手権へ選手派遣(男子3名、女子1名) ブルガリア、Sopot 10月20日～28日 31か国、129名参加(内女子27名 ジュニア18名)

[総合] 1位Yang Chen(中華人民共和国)、2位Linus Schubert(ドイツ)、3位Aris Afriansyah(インドネシア)、72位岡芳樹、74位橋本みさ紀、107位

古田岳史、115位平野竜二 [女子] 1位Eunyoung Cho(大韓民国)、2位Cather Devos(フランス)、3位

Donghwa Yang(大韓民国)、9位橋本みさ紀 [ジュニア] 1位Linus Schubert(ドイツ)、2位Rafael Carvallo(チリ)、3位Lennard Schubert(ドイツ) [国別] 1位インドネシア、2位チェコ、3位大韓民国、21位日本

5) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理

・Jリーグ(参加人数162名、成立大会7) [オープンクラス] 1位橋本耕一、2位岩崎拓夫、3位小林大晃 [オープンクラス女子] 1位山下敦子、2位平木啓子、3位中目みどり [スポーツクラス] 1位杉山卓也、2位長島信一、3位氏田敏彦

・J2リーグ(参加人数143名、成立大会3) [総合] 1位齊藤光秋、2位杉山卓也、3位氏田敏彦 [女子] 1位鈴木彩、2位多賀綾子、3位坂口杏 [チーム] 1位ポンコツ、2位アサレン、3位丹バラA

・XCリーグ(48名、647本:10km以上) 1位中川喜昭398.18km、2位佐々木伸二333.09km、3位阿知波広和325.55km 最長フライト:阿知波広和131.1km

・AJリーグ(参加人数62名、成立大会4) [スクランチクラス] 1位岡芳樹、2位河本勇吉、3位和田浩二 [スクランチクラス女子] 1位伊藤まり子、2位橋本みさ紀、3位高橋美佳 [ハンディキャップクラス] 1位岡芳樹、2位河本勇吉、3位日野政浩 [ジュニアクラス] 1位花田瞬、2位横田開、3位篠崎大河 [チーム] 1位丹バラA、2位スカイ朝霧、3位びよびよ

6) 2023年度XC日本選手権開催 和歌山県紀の川エリア 2023年3月17

日～21日 2本成立 70人参加（内10人海外選手）規定により日本選手権として成立 [総合] 1位岩崎拓夫、2位小林大晃、3位橋本耕一、4位呉本圭樹、5位隅秀敏、6位稻見祐二 [女子] 1位四方純、2位成山奈緒、3位平木啓子

7) 2023年度アキュラシー日本選手権開催

静岡県猪之頭エリア 2023年12月2日～3日 8ラウンド成立 40人参加（内7人海外選手）規定により日本選手権として成立 [総合] 1位岡芳樹、2位古田岳史、3位和田浩二、4位川村真、5位花田瞬、6位梅迫賢一 [女子] 1位伊藤まり子、2位橋本みさ紀、3位山口香代



フランスで開催、XC世界選手権へ選手5名を派遣。



選手4名派遣、アキュラシー世界選手権はブルガリアで。

安全性委員会

委員長：伊尾木 浩二

1) 2023年度事故件数（報告47件 集計2023/1/1～12/31）

PG: 37件（死亡事故5件） MPG: 3件（死亡事故1件） HG: 7件（死亡事故1件）※昨年2件

2) 事故報告書の作成

2023/2/5発生 広島県福山市MPG水没事故報告書（担当：賀家慎司）

2023/3/5発生 大分県スカイハイ死亡事故報告書（担当：小林秀彰）

3) セーフティーノーツの管理（担当：竹村）

・定期的にDHV、BHPA等の情報を確認し、可能な範囲でウェブに反映（最終確認2024/3/7）

4) 安全性委員会ホームページ状況管

理（担当：伊尾木）

・定期的に確認（最終確認2024/3/7）

5) JHFレポートに記事の掲載

・240号 自分を過信しない／仲間と協力して安全飛行を守る（安全性委員会）

・241号 春のフライトを安全に楽しむために（執筆：伊尾木浩二）

・242号 ベテランライダーによる事故（執筆：佐藤克久）

・243号 秋のパラグライダーフライトは…（執筆：大井義継）

・244号 航空法をしっかり理解してXCを楽しむ（執筆：伊尾木浩二）

6) JHFウェブページによる注意喚起情報の提供

2/20 MPGに対する注意喚起

3/15 ハイパフォーマンス機でのモーターパラグライダー飛行への注意喚起

11/15 AirDesign社製パラグライダーのラインコネクター（ループ）の検査

7) チェック5タグの普及促進を継続（安全注意喚起）
【5項目】レスキュー・ピン、ラインチェック、バックル（レッグ→チェスト）、無線機（通信→ロック）、風の状況

8) 機体登録の簡易化（竹村）

年度末までに仕上げる予定

9) レスキュー・パックテキスト改訂 PDF処理、印刷は現時点では行わない

10) PGパイロット安全セミナー

テキスト改定予定で検討中

11) MPGパイロット安全セミナー

テキスト改訂予定で検討中

12) 無人航空機対策

エリアMAPをWEB表示化

13) 福田聖子さん安全セミナー開催

2024/1/14 参加者74名+スタッフ4名+講師1名



安全セミナーで福田聖子さんの講義に熱心に耳を傾ける。

教員・スクール事業委員会

委員長：北野 正浩

1) 教員実技検定会 8名（PG 5名、HG 3名）

2) 教員学科集合検定会 2024.2.26開催。東京（TKP銀座ビジネスセンター会議室8B）コロナ以降初めて、1か所に集合しての検定会。受検8名（PG 8名、HG 0名）、合格5名。不合格者3名は2024年度中に補習・再検定を予定。

3) 上級タンデム技能証検定会 5回開催

4) 教員助教員更新講習会 15ヵ所71名（PG65名、HG 6名）

5) レスキュー・パックテキスト改訂認定証更新講習会・検定会 6ヵ所更新17名、新規10名

6) タンデム教本の作成（上級タンデム教本と分冊にする（進歩なし）

7) 教員の資質向上の支援

教員学科検定受検者にはオンライン講義と予備講習を実施。事前のレポート提出を課したうえ、検定当日の資料作成を強く推奨。例年よりも合格率向上。不合格者も例年よりは内容向上。



教員学科集合検定会はコロナ禍以降初めて対面で実施。

補助活動委員会

委員長：賀家 慎司

1) ホームページ執筆

2022年12月30日マイクロウイングによる墜落死亡事故に関するポーラーカープ特性について

2) 事故調査

福山モーターパラ水没事故

3) 注意喚起

新潟モーターパラ事故

4) その他活動

・DIPSへの対応をめぐりJPMAとの協力体制を目的とした連絡会の提案と樹立

・MPG教員実技規定作成

・モーターパラ安全操作見本動画撮影実施

・テキスト改訂用原稿作成

制度委員会

委員長：中瀬 誠

1) JHFにかかる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理

- 1 理事会諮問事項への答申等
- ・公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟会員会費規約改正
 - ・JHFフライヤー会員規程改正
 - ・JHF入会及び退会規程の改正
 - ・上級タンデム取得所有者のStage6 IPPIカード申請について
- 2 JHFホームページ上の総覧整備(規程改正およびFAI部分)
- <https://jhf.hangpara.or.jp/office/office.html>
- 2) 他委員会および事務局との連携
- 1 各種制度導入および改正について
教員スクール事業委員会と連携
HG/PG技能証規定改正
 - ・HG上級タンデムの検定細則について
 - 2 事務局との連携
 - ・JHF公印取扱規程の範囲
 - ・JHFにおける諸規定作成管理規程の範囲

ハングパラ振興委員会

委員長：井上 潔

- 1) 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り
 - ・フライヤーズボイスの定期更新体制の立案と運用
 - ・JHF Report発行に同期した更新体制とJHF Reportへの要約記事掲載を開始 2023.10 Flyers Voice特別版 江本悠滋／2023.11 Flyers Voice24 ほんまかなこ／2024.1 Flyers Voice25 油座菜々子
 - ・飛ぶのを止めてしまった方の状況分析
 - ・学生が卒業して止めてしまう問題の分析と対応策検討（学連と連携）
 - ・家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ（仮称）」制作、学生向けに配布
 - ・SNS（Facebook等）を活用した情報発信の検討 → 写真コンテスト検討
 - ・SportsNaviへの投稿

2023.4.8 【ハンググライディング日本選手権】田中元気が日本選手権連覇!

2023.7.30 【パラグライダー世界選手権】平木が女子5位入賞 日本勢は小林の48位が最高位

- ・PR Timesとの協力関係締結 → 契約条件確認中
- ・JHF Report 企画立案への協力・編集委員会への出席
- 2) 体験会等イベントへの協力
 - ・「新しい生活様式」におけるイベントの模索
- 3) 外部組織との連携
 - ・VR体験に関する大学研究室との協力体制維持
- 4) 後援申請に対する承認
 - ・大会以外の体験会やイベントの後援申請に対する確認および承認

役員選任実行委員会

委員長：鈴木 由路

- 1) 2023年度通常総会における役員選任の準備
- 2) 役員選任規約の改定検討

JHFの動き

教員学科検定の予備講習と再検定を受けられます

JHFの教員になることを目指す方は、実技検定と学科検定の両方に合格する必要があります。学科検定の中で、学科問題2問について各10分で解説する教習実技検定がありますが、合格率は高くありません。「周囲に指導者がおらず、どのように解説したらよいか学ぶことができない」という声もあります。そこでJHFが講師を紹介し事前講習を受けられる仕組みを作りました。ぜひご活用ください。また、教習実技で不合格になった方に対して、この講習の受講により再検定の機会を設けます。

詳しくはJHFウェブサイト、6月13日のトピックス「教員学科検定の予備講習と再検定について」をご覧ください。

上級タンデム検定の練習会を開催します

かねてから要望の多かった、上級タンデム検定の練習会を、今年度から始めます。検定員から検定項目の意図や採点のポイントの解説を受けた上で、実際に練習フライトをすることができ

ます。上級タンデムの検定を受けようと思う方は、まずは練習会に参加してみてはいかがでしょうか。

参加費：2万円（エリア利用料、ティクオフへの送迎料金等は別途）

予定最少開催人数：3名

開催予定：

石川県 獅子吼エリア 7月29日(月)
～30日(火)

和歌山県 紀の川エリア 12月（試乗会の後を予定）

静岡県 朝霧エリア 冬季

詳細日程は決まり次第JHFウェブサイトなどで発表します。なお、今年度のJHF公式練習会はこの3回ですが、スクールや検定員個人が各個に練習会を開催するのは自由です。また、今後まとまった人数の受講希望者が集まれば、検定員を派遣して練習会を開催することも検討します。

手作り飛行機の大会でPG体験会を行いました

愛媛県八幡浜市出身で「飛行機の父」と呼ばれる二宮忠八(1866～1936年)をたたえる二宮忠八翁飛行記念大会(市觀光物産協会など主催)が若山の市民スポーツパークで開催され、JHF

はパラグライダーエキシビションを行いました。以下は橋田明夫理事の報告です。

二宮忠八翁飛行記念大会は、忠八が日本で初めて「カラス型模型飛行器」の飛行実験に成功した1891年4月29日にちなんで毎年この日に開かれており、今年は第49回。雨にも負けず、県内外から集まった子どもから大人まで約200人が、ゴム動力プロペラ機や紙飛行機など3機種の手作り飛行機で滞



ブースで航空スポーツの紹介をして認知度アップ。



短い体験で残念だったが会場に歓声が響いていた。

空時間を競った。参加者はプロペラをひねり動力をためた状態でスタンバイし、審判の合図で自慢の飛行機を一斉に空に放った。なかには山を越える大飛行を披露した参加者もいた。

今回初の試みとしてパラグライダー体験会を開催したいと八幡浜市から依頼があり、JHFは愛媛県ウインドパルESDの山野好喜教員とスタッフ5名に体験会を委託した。

専用ブースを設置していただき、パンフレットの配布、ハーネスの展示、スタッフによるパラグライダーやハングライダー、パラモーターなど航空スポーツの解説も。雨のためかブース内を訪れる来場者は多く、パラグライダーをはじめ航空スポーツを紹介するよい機会となった。

小雨になったのを見計らい、スタッフによる体験デモフライトを行った。上空には強い風が吹いており、それが山を切り開いた会場に時折複雑に降りて来て風向きが安定しない状況だった。グライダーが立ち上がっても滞空中に風向きが変わり、牽引方向とは別の角度で着地する場面もあった。デモフライトを2回実施し来場者から「おー！」と歓声も。15名の体験申し込みがあったが、雨はもっと強くなり体験会は途中で終了となった。

競技中は競技に集中してもらう必要があり、パラグライダー体験会を同時にできなかった状況から、競技の前後や採点中の時間など短時間しか体験してもらえず、課題が残ることとなった。しかし、天候に左右される状況ではあるが、競技の間に複数でグラハムをして見せるなど、認知度アップにつながったと思う。

次の機会と天候に恵まれれば、さまざまな手法で子どもたちや大人にも大空への夢をお届けし、航空スポーツをより多くの方に知っていただきたいと思う。



体験会スタッフの皆さん。雨中おつかれさまでした。

JHF賛助会員を募集しています

JHFは、正会員、フライヤー会員、そして、賛助会員を会員として成り立っています。

正会員は、JHF事業に賛同する都道府県を単位に結成された団体（都道府県連盟）。フライヤー会員は、JHF事業に賛同する個人。賛助会員は、JHF事業に賛同し、援助する意思を持つ個人及び団体です。

賛助会員としてJHFを側面より応援、支えていただける方を募集しています。業種、年齢等は一切問いません。年会費は1口20,000円（口数の制限はありません）です。

JHFウェブサイトのトップページからリンクして、賛助会員のサイトを閲覧できるようにしています。また賛助会員からのチラシ等をJHFレポートに同封することも可能です（有料／事前チェックあり）。ぜひご検討ください。ご不明な点はJHFの事務局までお問い合わせください。

現在の賛助会員をご紹介します（ご加入が古い順に掲載）。

●東京海上日動火災保険株式会社

JHF会員登録の第三者賠償責任保険、任意の傷害保険であるJHF総合保障制度、スクール向けの施設賠償責任保険をご提供いただいている。https://www.tokiomarine-nichido.co.jp/

●株式会社ジャパンエニックス

フライヤー会員の皆様に必要な無線機等を販売、レンタル等サポートもしています。JHFへもデジタル無線機を無

償でご提供いただいている。

<https://www.jenix.co.jp/>

●株式会社ラ・ムエッティ

パラグライダー、モーター・パラグライダーのフライト用品の販売、アフターサービス

<https://www.sky-sports.net/>

●株式会社オフィス・ムーン

スカイパラグライダーズ・ジャパン部門

パラグライダー、モーター・パラグライダーのフライト用品の輸入販売
各種修理ほかアフターサービスの提供

<https://skyparagliders-japan.com/>

●株式会社橋田

パラグライダー、モーター・パラグライダーのフライト用品の販売、アフターサービス

<https://www.hashidalt.com/>

●株式会社スポーツオーパカイト

ハンググライダーのフライト用品の販売、アフターサービス、スクール運営

<https://www.opa.co.jp/>

●株式会社フィールドジョイ

気象観測、アウトドアスポーツ、パラグライダー用品販売等

<https://fieldjoy.jp/>

●ダビンチ・ジャパン

パラグライダー用品の販売、アフターサービス

<https://www.flydavinci.com/>

●株式会社フィールドマウンテン

パラグライダーフライト用品の販売、スクール運営

<https://fieldmountain.jp/>

JHFフォトコンテスト開催

お気軽にご応募ください！

2024年度もJHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストを開催します。ハンググライダーやパラグライダーの写真ができるだけ多くの人々の目に触れることにより、このスポーツの認知度が上がり、より一層の普及のために役立つと考え、2010年から開催し、今回で11回目を数えます。

ハンググライディング・パラグライディングの素晴らしさ、楽しさ、

そして身近なスカイスポーツであることを伝えられる作品を募集します。お気軽にご応募ください。データでも応募可能です。

募集要項等はJHFウェブサイトの4月16日のトピックスでご覧ください。応募締切日は2024年9月10日(火)です。

なお、全応募作品から14作品をJHFカレンダー2025年版に採用させていただきます。

再度確認の徹底を！

JHF安全性委員会 委員 佐藤 克久

クロスチェックの徹底を！

毎年のようにハーネスのレッグベルト付け忘れによる死亡事故が発生している件については皆さんご存じのことだと思います。それに対し、JHF、他団体でも注意喚起を行い、クロスチェックの徹底を促しております。

しかし現状はどうでしょうか？

私のエリアでもビジターの方に「クロスチェックしましたか？」と確認を取ると「はい、自分でやってます」とはっきり言われたりもします。「それはセルフチェックであって、クロスチェックと違いますよ！ 見ず知らずの方にお願いしても良いですから必ず確認してもらってください！」このようなやりとりがいまだに多々あります。

実際、死亡事故にはならなかつたものの、レッグベルト付け忘れでテイクオフし、運よくツリーランで済んだという話も耳にします（事故報告がない伝聞情報）。

さらには事故報告書で同様な報告があり「今後は、よりクロスチェックを徹底します」……ということは、これまでしっかりとやっていたかったってことですよね？

やりましょうよ！クロスチェックくらい！ 当人が忘れようがなんだろうが、防げますよ、脱落事故なんて、間違いない。

これはフライヤーもそうですがエリア管理者の意識付けが一番大事なことです。最初のうちは煩がられるかもしれませんし、やることがいろいろあって忙しいとは思いますが、事が起きたら……わかりますよね、もっと忙しいこととなります。一度習慣付けが出来てしまえば何のことはないです。まず管理者がしっかりと！

そしてクロスチェックを徹底するようになってくると、意外にもレスキューピンの外れを発見する回数が異様に増えてきています。

これは突然増えてきたわけではなく、従来からこんな調子で、ただ気付かれなかっただけです。発見できたこと自体は良いことですが、ハーネスを

身に着ける前にまず確認を！

ザックから取り出す際、送迎車から降ろす際に、何かに引っ掛けたてピンが抜けるケースなどざらにあります。「奇麗にライズアップしていざティクオフ！」の直後にパラシュートがボロリ、開傘したパラシュートの影響でダウングラーンを起こしたキャノピーは下方に向かってツリーラン……なんて残念過ぎる事例を昨年目の当たりにしてしまいました。

装備の点検、確認を！

いよいよ本格的な夏のフライトシーズンです。出掛ける前に、装備の点検に時間を割いてみませんか？

【レスキューパラシュート】

レスキューパラシュートは、JHF、他団体共に6か月毎のリパックが推奨されており、リパックタグで証明されない場合、フライトを原則お断りしているエリアが多数です。定期的なリパックを行っていないパラシュートは湿気を多く含んでおり、ナイロン生地の劣化をより早めています。

また、JHFでは耐用年数を10年と定義しております。古いレスキューパラシュートの場合、ナイロン生地が加水分解を起こしているケースもあり、ベタ付いたあげく、貼り付いてしまっているものすら見受けられます。

古いレスキューパラシュートを今も所持している方は最新のモデルに変更しましょう！

リパック作業を行った方は「古いな！」と思ったら、しっかりと持ち主に買い替えを提言しましょう。

近年のクロスレスキューと言われているタイプは、ビックリするほど開傘が早く、また、降下後の安定も良好です。そしてなによりも軽い！です。

ところで、レスキューパラシュートをしっかりと引き出せますか？

投げてみようとまではいかないでも、しっかりと引き出せるか確認してみましょう。レスキューコンテナとハーネスの構造の相性が今ひとつの場合、思わぬ力を要するケースもあります。

「出にくいな」と思った場合、リパック認定者の方に相談してみましょう。

また、引き出そうとした瞬間にハンドルだけ抜けてきたなどという笑えないケースに遭遇したことがあります。コンテナとハンドルの接合部の縫製が古すぎて破損していました。

古い装備は要注意です。

【ハーネス】

ハーネスに関しても同様で、古い物ほど厚手の生地で作られており、一見丈夫そうですが、レスキューリターン部付近にベルクロ（マジックテープ）を多用しており、こちらの劣化は避けられず、開いてしまいがちになり異物が混入しやすくなります。リパック時に内部から石がゴロゴロなんてことも……。

そしてキャノピー本体

ここ数年、パラグライダーの性能向上が著しく、特に2-LinerのCクラスが各社から多く発売され注目を集めています。

J1リーグに参加されている方々にはもはや周知の事実なのですが、ラインの収縮によるトリムの変化が飛行及び安全性能に及ぼす影響が非常に大であると言われています。

メーカーも取扱説明書にはっきり記述するようになり、この部分はしっかりと点検する必要があります。曰く、50時間毎の点検の推奨、他には新品使用時から20~30時間の間が一番寸法変化が著しい等、「新しいから大丈夫」という考えとは別次元な注意書きがなされています。

時折困った判断をされる方がおり、「推奨なんだから、やる、やらないは個人の判断でしょ？」と言われことがあります。法的に拘束出来るわけではないのでそう書かざるを得ないだけであり、作ってテストしているメーカーは、何の根拠も無く書いているわけではありません。

とても簡単に上達してしまうスカイスポーツ、ケガをするのも簡単です。

今一度安全認識の再確認を行って、楽しいフライトを！

多発するMPG死亡事故について

JHF安全性委員会・補助動力委員会

今年に入り MPG（モーターパラグライダー）の死亡事故が 4 件発生しております。内 1 件は病死の疑いがあります。他の 3 件は防げる事故の可能性が高く、山でのパラグライダーと同様に、防げる事故を起こさないように、飛ぶ前のチェックを必ず行いましょう。セルフ W チェック、クロスチェックを必須として行うことにより、防げる事故リスクを大きく減らすことができます。

正しい操作・知識を得て安全飛行を

今年の MPG 死亡事故から考えてみましょう。

□ ラインが絡んでいる状態で離陸し、そのまま飛び続けて川に落下（浮力体を装着していたが開かず）。

事前のチェックをしっかりと行うこと、あるいはライズアップ後に問題がなければティクオフディレクターまたは誰かにゴーサインを出してもらうなどの対応ができるれば、事故は防げたかもしれません。

経験が少ない方、久々に飛ばれる技能証保有者、自信の無い方は積極的に仲間に相談してサポートしてもらえば、リスクを減らすことはできます。

□ 翼の動きに対して適切な操作ができず、ツイストして海に落下（浮力体装着なし）。

基本操作ができていない、パラグラ

イダーで飛ぶための知識が少なすぎる可能性があります。技能証保有者でも、教員や助教員、ベテランパイロットから正しい操作や知識を学ぶことが重要です。決して安易に独学等で飛ばないこと。自身の技量にあった適切な翼とエンジンユニットを使用することも重要です。

浮力体を装備しただけで安心しない

また、河川、海上においてフライトする場合には、必ず浮力体を装備すること。

なおかつ、深さのある水上での低空飛行は禁物です。エンジンがいつ停止しても安全に着地できる余裕を持った高度を常に確保するようにしなければいけません。

浮力体を装備しての着水テストは JHF で過去に行っており、実際に着水すると安易な浮力体装着では開いても溺死するリスクは大きいことが証明されています。

適切な装着と燃料の搭載量は重要であり、タンク内の空気が多いとお尻が浮かび、たとえ浮力体を装備していても顔面は水中に潜りやすいことを覚えておいてください。

十分な知識、新しい知識を得て飛ぶことにより安全性が向上しますので、安全セミナー等に参加し、楽しくフライトを続けられるようにしていただき

たいと思います。

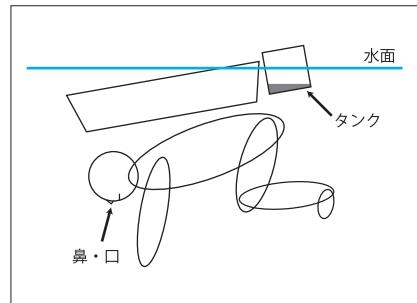
また、浮力体の CO₂ ボンベの取り付け確認と有効期限確認を実施するようになしましょう。



浮力体を装備し着水実験。顔を水上に出せないことも。



うつぶせの状態からあおむけになるのは容易ではない。



着水時にタンク内の空気が多いと、その浮力によってお尻が浮かび、顔面は水中に潜りやすい。

2024年の事故報告（1・2、4・5は前号参照）

	日付	機材	内容	EN	年齢	経験	性別	練習生	怪我の状況
3	1月24日	MPG	片翼ライン絡みTOし、高度30mくらいから旋回して川の中		74	13~	男	未	死亡
6	2月10日	PG	着陸前の高度10m程度で漬され落下	C	50	10	男	XC	腰部、腰椎骨折
7	3月16日	PG	背ポケから小物取り出し、レッグベルト付け忘れ	D	64	17	男	XC	無傷
8	3月23日	PG	着陸時にロールの動きが出てハード着陸		68	0.4	男	B	腰部腰椎骨折
9	3月31日	PG	J1競技中、上空で漬されレスキュー開傘し着地		50	14	男	XC	無傷
10	4月28日	MPG	アプローチ中、飛行中に心臓発作の疑い		72	20~	男		死亡
11	4月28日	PG	強めの風、離陸直後にすぐに着地し風下に持っていくか負傷	B	64	8	男	P	腿から足捻挫
12	5月4日	MPG	適切な操縦が出来ていなかった疑いあり（調査中）		62		男		溺死
13	5月4日	PG	旋回時ブレーキ引きすぎ失速、フライバックさせ樹木軟着	C	34	4	男	XC	無傷
14	5月11日	PG	アプローチのピッチ操作ができずハードランディング	B	65	3	男	P	左足腓骨を骨折
15	5月25日	PG	風が強くなり高度処理中に電線に接触落下。一時意識不明	B	29	4	女		
16	6月2日	MPG	海に墜落（調査中）		62		男		溺死

浮力体点検のお願い

JHF補助動力委員会

モーター・パラグライダーの死亡事故が多発しています。

原因として浮力体の点検が十分でない事案が散見されます。フライヤーの皆さんは浮力体の点検を行っていますか？まだやったことがない、しばらくやっていないという方は、すぐに浮力体の点検を行ってください。

【点検項目】

- ①覆布は劣化、破損していませんか？
- ②ベルトが破損していませんか？
- ③バックルは破損していませんか？
- ④気室生地に穴が開いていませんか？
- ⑤充気装置
- ・ボンベに錆がついていませんか？
- ・センサーの使用期限が切れていますか？

- ・手動引手索がちぎれかけていませんか？
- ⑥補助送気管に息を吹きこんで空気の漏れはありませんか？

※下図のような状態が発生した場合は、製品を買い換えるか、メーカーに修理を依頼してください。



提供：高階救命器具株式会社（同社ウェブサイトより）

【図について】

図内の文字が小さいので念のため下に記します（左下から時計回り）。

左下：ベルト・バックルが損傷している。

左中：炭酸ガスボンベが劣化している。

左上：気室生地に穴が開いている。

右上：再帰反射材が剥がれている。

右下：補助送気管が破損している。

【JHF着水テストについて】

前ページに記載の「着水テスト」の報告を2017年10月20日発行のJHFレポート219号に掲載しています。

JHFウェブサイト>フライヤー会員ページ>JHF REPORT.pdfでバッケナンバーをご覧になれます。

注意喚起

□ADVANCE社製ハーネス

JHFウェブサイトの安全性委員会ページにDHVやメーカー等が発表する耐空性改善に関する通報「セーフティノーツ」があります。以下は6月5日更新の情報です。詳しくは委員会ページをご覧ください。

【リザーブハンドルの点検を！】

ADVANCE社製、製造番号が1147390以下のPROGRESS 3ハーネス、および製造番号1147140以下のEASINESS 2ハーネスに適用。これ

らのハーネスを使用しているパイロットは、直ちにリザーブハンドルを点検しなければなりません。ハーネスの製造番号は、ハーネス上部のキャリーハンドルの横にあるロゴラベルの裏に記載されています。点検方法はセーフティノーツのページをご覧ください。この点検で問題がある場合、次のフライトまでにリザーブハンドルとリザーブコンテナの交換が必要です。

福岡聖子安全セミナーを JHF Official Videoで

1月14日に開催した福岡聖子さんの安全セミナーをJHFウェブサイト>JHF Official Videoでご覧いただけます。

撮影＆編集協力：遠山英二氏（紀の川UP WINGS所属）



ルアードレスなどをご登録ください。

会員サービス充実のため、経費削減のため、皆様のご理解とご協力をよろしくお願いします。

【入力項目】

フライヤー登録番号

氏名

生年月日

メールアドレス

携帯電話番号

【登録サイト】

<https://sites.google.com/view/jhf-online/>

フライヤー会員の皆様へ
メールアドレスを
登録してください

登録はこちら↓



JHFでは、会員管理システム等の改修をするための準備をしています。今年10月の郵便料金値上げへの対応、事務効率化のため、システム改修後は更新通知や会員証等の発行、発送等について、メールを利用してご案内していく予定です。

また、技能証の申請や発行もオンラインでできるように、マイページで住所変更届けなどができるよう、検討をしていきます。

つきましては、左のQRコードまたは本文最後のURLから、お名前、メー

保険について知ろう

第1回：インバウンドを迎える／海外に飛びに行く

夏休みシーズン到来。海外からのフライヤー（インバウンド）を受け入れる、または海外でのフライトを予定している方もいらっしゃると思います。他国のフライヤーとの交流は刺激になり、きっと楽しい経験となることでしょう。しかし、それも安全であってこそ。迎えた外国人フライヤーが事故を起こしたら、あるいはあなた自身が海外でのフライトで怪我をしてしまったら……備えはできていますか。

いざというときに「そんなこと、知らなかった！」と後悔しないように、保険についておさらいをしましょう。
【注意】下記はすべて一般的なことであり保険会社や個別の事故では異なる場合もあります。ケース・バイ・ケースであることを念頭にお読みください。

【インバウンドを迎える前に】

円安傾向が続き、インバウンドを受け入れるスクール・エリアが増えていくと予測されます。インバウンドを迎える前に、その技能レベル等を確認するとともに、保険のチェックもお忘れなく。

○治療／救援／賠償の費用をカバーする海外旅行保険に加入しているか？

出発前に自国で海外旅行保険（日本での治療／救援／賠償の費用をカバー）に加入してもらうことが最善です。

通常、海外旅行保険の会社は国際アシストエージェントの組織と提携しており、事故が起きた際はそのアシスト組織が対応してくれます。言語、国民性、生活習慣などの違いからインバウンドとの対話には齟齬を來す場合もあり、国際的なアシスト組織に任せることができれば、安心でしょう。

海外旅行保険に未加入のまま来日した場合、入国後に日本で使う保険に入れるとしくみも広がっており、たいていはインバウンド本人がインターネットから加入手続きをすることができます。

日本国内ではハンググライダー搭乗中の事故は免責。つまり保険の対象外となります。インバウンドがハンググ

ライダーでのフライトを希望しているなら、加入している保険も免責かどうか、予め確認が必要です。

○インバウンドの帰国後の連絡先・連絡方法は？

インバウンドの多くは短期滞在のため、本人に起因する事故で賠償責任が生じた場合、帰国後はどこに／どのような方法で連絡するのか、はっきりさせておくことが大切。損害賠償事故に限らず、本人が死亡や意識不明などの状態に陥るケースも考えられ、予めの確認は必須です。

JHFではインバウンドのフライヤー登録を推奨していますが、登録と同時に加入するのは「個人向け賠償責任保険」であり、治療や救援の費用は補償されませんのでご注意ください。

【海外フライトの前に】

夏休みはホームエリアを離れて海外でフライトするという方は、わくわくしながら準備に追われていることでしょう。忙しくても保険のことを忘れずに準備リストに入れてください。

○現地で必要な保険を調べる

出発前に、渡航先のハンググライディング／パラグライディング連盟のサイトなどで、加入が必要な保険を調べておきましょう。日本で加入手続きができるかどうかも確認すること。

○出発前に海外旅行保険に入る

海外での事故（自損／他損）や病気への備えとして、海外旅行保険に加入することが最も重要です（但しハング

グライダー搭乗中の事故は免責）。

○海外旅行保険の費用はケチらない

海外旅行保険は治療／救援／賠償の費用が十分に補償されるものにしましょう。特に賠償責任保険はケチらないこと。補償額が不足した場合、保険会社が提携するエージェントは動いてくれません。

海外旅行保険以外でも海外で使える保険がありますが、注意が必要です。ご自分の加入している保険について確認しておきましょう。

○普通傷害保険で「治療費用」を？

普通傷害保険は国内外で通用することが多いのですが、「治療費用」ではなく契約時に決めた「入院日額／通院日額の定額費」の補償を受けることができます。海外で医療を受けたときの入院／通院診断書証明書をもらってきて、日本で請求するものです。

○個人賠償責任保険は海外で通用？

海外でも通用する個人賠償責任保険は多くあります。但し、海外での示談折衝などのサポートは対象外。自分で交渉しなければなりません。

○クレジットカード付帯の保険は？

クレジットカード付帯の保険は補償が限定されていることもあるので、予め詳細の確認が必要です。

以上、保険についてざっと復習しました。JHFウェブサイトの「フライヤーサポートデスク」>「各種保険について」も参考にしてください。

2024JHF総合保障制度 中途加入のご案内

JHFレポート前号で「2024JHF総合保障制度」のご案内をしました。5月24日が申し込みの最終日でしたが、うっかり忘れてしまった方に朗報です。中途加入の受け付けが始まりました。ご希望の方は、JHFウェブサイト>6月10日トピックス「2024JHF総合保障制度、中途加入のご案内」>「お手続きサイト」からインターネットで

お申し込みください。

この保障制度は任意で加入するフライヤー自身のための傷害保険です（フライヤー登録の有効必須、ハンググライダー対象外）。パラグライダー／モーターパラグライダー搭乗中の事故はもちろん、仕事中の怪我、地震や噴火、津波などの災害による怪我も対象です。救援者費用の補償も付いています。

第2回FAIパラグライディングアジア・オセアニア選手権 平木啓子が総合10位、女子トップを勝ち取る！

2024年6月6日-16日 大韓民国 聞慶（ムンギョン） 報告：チームリーダー&選手 長島 信一

第2回のアジア・オセアニア選手権（第1回はコロナで中止）が6月6日～16日に韓国の聞慶市（ムンギョン）で開催され、9カ国115名が参加。日本からはナショナルチーム6名を含む13名が参加した。ナショナルチームは男子3名（小林大晃、多賀純一、隅秀敏）、女子3名（平木啓子、山下敦子、吉川朋子）、チームリーダー長島信一の構成。プライベート参加で早坂真有美、阿知波広和、若山朋晴、花田瞬、中目みどり、竹尾雅行、長島（リーダー兼任）の7名が競技に臨んだ。

聞慶エリアは韓国のはば中央に位置する、聞慶市を真ん中に東と西と北に1000m程の山並みに囲まれた盆地。テイクオフは東の尾根900mに作られ、3～4機が出られる理想的な場所だ。風向きもほぼ全方位に対応している。

6月のサーマル条件は、気温差がありハードだと聞いており、戦々恐々の参加となった。

開会式はド派手な演出で町をあげての歓迎ムード。やはり大陸選手権となると規模が違う。

Task 1

6月7日、競技初日は晴天、東側尾根を往復して対岸に渡ってからゴールの52キロ、先ずは小手調べタスク。12



ナショナルチームの選手6名と長島リーダー（右端）。



歓迎ムードいっぱいの開会式に臨む日本選手たち。

時半には全機一斉横並びスタートで北へ。ファーストパイロンを回って山回りと沖回りの二組に分かれて南先端へ。ここで大番狂わせ発生、沖回り組が大シンクにはまり続々とランディング、チームの多賀も降りてしまい平木や小林まで大苦戦。山回りを取った山下と隅が順調にゴールした。危うく日本チーム全滅の憂き目に遭うところでした。

Task 2

6月9日、競技2日目は、北風に乗って南へ69キロのクロカンタスク。スタートパイロンが大きいので何処から出るか悩ましい。

途中から南西風アゲンストで直線ルートは大苦戦、山中迂回ルートが一気にトップへ出てゴールへなだれ込む。終始先頭集団にいた平木がトップ集団でゴール、続いて多賀もゴールし、チーム得点を重ねる。トップは韓国のチゴン・ウォン、地の利を活かして安定した強さだ。

Task 3

南へ30キロ、東へ30キロの60キロゴール。直線ルートを大集団が進み、途中低くなるがそのまま集団でのゴール。多賀5位、平木7位、小林も上位ゴールとチームの調子も上がってきました。



ナショナルチームの一員として健闘、隅秀敏。撮影：多賀純一

Task 4

南ヘジグザグ2つパイロンで67キロゴール。スタートから平野部直線ルートを先頭集団は突き進む。第2パイロン付近でセカンド集団が追いつき混戦模様になり、低くファイナルに入ったトップグループの数人がギリギリゴールへ。小林がきっちり5位でゴールを決めて本領発揮。

Task 5

本流の風が弱く、どの方向でも行ける条件。TOを起点に星型に4方向のパイロン設定、タスクメインはムンギョンスター。スタートしてからはアクセルの踏み抜き競争。少しでも緩めればあっと言う間に抜いていかれる。トップを走り続けた小林が5番手、続いて平木、後続もゴールが続いて80人ゴールの大盛況。

Task 6

上空までほぼ無風で減率抜群の好条件。まだ誰も飛んでない空域をスクエアに飛ぶ60キロのチャレンジタスク。

雲底からのスタートはアクセル全開、行く先々のサーマルでは回していくと置いていかれる。未知の尾根上にランディング場所はほぼない。集団でなければ入りこまない場所だ。

中盤からトップを走り続けた小林がトップと僅差の2番手、絶好調の平木



各国選手がしのぎを削る。総合優勝、韓国のチゴン・ウォンは全タスクでトップの完全優勝。撮影：多賀純一

は6位ゴールで女子トップを盤石なものに。

Task 7

昨日は山沈やレスキューが続出のハードな日だった。タスク7は湾内を1.5周する安全タスク60キロ。毎日条件に合わせた秀逸なタスクはコミッティに感謝だ。

右回りにスタートして一周目はあっという間。1.5周目に入ると高層雲が張り出し大スタック。後半から追い上げた小林が脅威のスピードで5番手ゴール、終始トップ集団の多賀も6番手ゴール。

最終日

6月15日、最終日は雨が降り出し競技キャンセル。

この日は女子優勝を決めた平木の誕生日で、サプライズのバースデイケー

キが主催者からプレゼントされた。

表彰式ではアジア・オセアニア選手権女子優勝に平木啓子が輝いた。総合でも10位に入り大活躍。

優勝は韓国のチゴン・ウォン。全タスクトップの完全優勝。国別は韓国優勝、オーストラリア、中国に続いて日本は4位となりました。

[総合]

1位 Chigwon Won	韓国	5215.9
2位 Gareth Carter	オーストラリア	5098.5
3位 Peter Slade	オーストラリア	5098.1
4位 Che Gulus	オーストラリア	5092.2
5位 Gleb Sukhotskiy	カザフスタン	5085.9
6位 Zhenjun Zhao	中国	5079.2



圧倒的な強さを見せた平木啓子。撮影：小林大晃



女子表彰、中央に立つ平木啓子。まさに女王の賞禄。

[女子]

1位 平木 啓子	日本	4995.5
2位 Kari Ellis	オーストラリア	4462.6
3位 Hyunhee Kim	韓国	4121.8
4位 Che Gulus	オーストラリア	13496.0
5位 Gleb Sukhotskiy	カザフスタン	13382.2
6位 Zhenjun Zhao	中国	13121.9

PGジュニア選手権に 代表選手2名を派遣

8月18日～31日、第1回FAIパラグライディングジュニア世界選手権(XC)がスロベニアのTolminで開催されます。

初めてのジュニア選手権、花田瞬選手、大澤彩花選手が日本を代表して参加します。チームリーダーは佐藤友紀氏。パリ五輪への声援に負けない大きな応援を！

*ジュニア：26歳以下

被災地復興応援プロジェクト 「空はひとつ」

寄せられ、2024年5月時点での95,000円の義援金をお預かりしています。

今回、能登半島地震の被災地への義援金を8月30日(金)まで受け付けます。多くの皆様のご協力をお願いします。

【義援金振込み先】三井UFJ銀行（銀行コード0005）巣鴨支店（店番号770）口座番号：[普通] 0017991 口座名義：公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟（コウエキシャダンホウジンニホンハングパラグライディングレンメイ）

一生自由に世界中を飛び回りたい



西東京パラグライダースクール所属。娘とタンデム。

■ホームエリアの特徴や魅力などを教えてください

場所は中央道の談合坂サービスエリアの目の前で、飛んでいるのがサービスエリアから良く見えます。ティクオフは瀬渕山（550m）、ランディングとの高低差は200m、雨と西風以外は飛べて、隣の不老山や高指山へければ1200～1500mまで上がり、ポテンシャルが高いエリアです。春のクロカン時期は2000mを超えることもよくあります。

ベテランから新規入校生も多いので

土日は飛べない日でも人が集まり、にぎやかです。特に土曜日の夜はみんなで泊まって宴会しています。

■パラグライダーを始めたきっかけは何ですか？

地元北海道の大学の部活で「人と違うことがしたい」と漠然と始めました。社会人になり6年ほどやめましたが、観光中にふと飛んでるのをみていたら昔を思い出し飛びたくて仕方がないなり、すぐに近くのエリアを調べて一番近い西東京パラグライダースクールへ。

昔はグラハンばかりでソアリングはちょっとでした。グラハンをして思い出しつつフライトすると運よく2時間以上飛べてしまい、そこからはパラグライダー漬けの日々になります。

どうすればうまくなるか？ 飛ぶ時間を増やすには？ 安全なランディングは？などなど、飛ぶことだけを考える生活です。

■パラグライダーをやってよかったです？

人間関係とストレス発散です。学生の時は親世代の方と関わることなんつまれですが、パラグライダーはベテランの社会人の方が多かったので勉強になりました。

社会人になってもそれは同じで、人生設計のアドバイスをいただいたらといいことづくしで、特に都会のストレ



伊豆でクロカン。日本中、世界中を飛びたい！

スで体調を崩しがちでしたが、パラグライダーを再開してからは治ってしまいました（笑）。もしも始めていなければ、不満がありつつも、目的もなく会社員をして生きていた気がします。

趣味ではなく、一生をかけて楽しく続けたいものに出会えて感謝しています。

■パラグライダーの一番の魅力は何ですか？

飛んでいるだけで楽しいことです。ずっとぶっ飛びだけでは飽きますが、エリアに行けば1本は飛びたいので、風が悪くなる予報の日は、風が安定している早朝にハイクアップして飛ぶこともしばしば。

タンデムはこちらも楽しんでいるのにパッセンジャーから感謝され、笑顔を見られ元気が貰えます。

誰かが言っていた言葉ですが「パラグライダーは反省のスポーツ」とは良く言ったもので、失敗はもちろん反省があるが、どんなに良い飛びができると思っても、風のタイミング？ 飛び方？ 操作ミス？ などなど無数にもつとうまくできたと反省がある。

理由は、同じ状況は二度となくその中でベストを出すことに飽きがありません。

自転車、クライミング、スキーなど色々やってきましたが、一度やめて再



西東京パラグライダースクールエリアのティクオフ（左）とランディング（右）。高低差200m、雨と西風以外は飛べるポテンシャルの高いエリア。



開したのはパラグライダーだけですので、飽き性の方にはお勧めです。

■これから目標は何ですか？

一生自由に世界中を飛び回りたい！

考えているのは、ヨーロッパをハイク＆フライで横断、国内や海外大会の参加、有名なエリアでのフライトなどなど、とにかく飛びたいですね。

そのために起業しましたが体力、時間、金銭、家庭のバランスが難しく前途多難ですが、お気に入りのトリプルセブンと一緒に達成します。

JHFウェブサイトでバックナンバーを

Flyer's VoiceはJHFウェブサイトで紹介しているフライヤーの生の声。サイトからバックナンバーもぜひ。

JHFレポートアンケートにご協力ください

JHFレポートを、さらに役に立ち、もっとおもしろいものにするため、フライヤー会員の皆様向けのアンケートを実施しています。スマートフォンからも簡単に回答できますので、ぜひご協力ください。

【アンケートの内容】

- JHFレポートの記事でよく読むもの
- これまでのJHFレポートで、特におもしろかった／興味深かった記事
- 安全に関する記事はどの程度読みますか
- フライヤーズボイスに取り上げてほしい人（自薦他薦問わず）
- 今後JHFレポートに掲載してほしい記事

□JHFレポート最新号の感想 など
回答は下のQRコードまたはURLからお願いします。



<https://tinyurl.com/jhfrepq>

JHFの動き 追加情報

上級タンデム検定会を開催します

今年度の上級タンデム検定会を下記のとおり開催します。

山形 10月1日（火）～2日（水）
朝霧 11月、1月

学連ニュース

今回は、2023年度末の学連総会と、新入生歓迎行事（新歓）の状況について報告します。

学連総会は3月末にzoom上で行われました。

最大の課題として挙がったのは、コロナ以降エリア間での交流がなかなかできていないことです。その結果、「全国各地の仲間と交流し、切磋琢磨できる」というハング・パラの醍醐味の一つを味わえず、活動に消極的になってしまう人もいるのではないか、という意見も出ました。

原因として、大会等のイベントへの参加者が少ないとや、そもそも本来交流の場となるはずの総会がオンライン開催であることが挙がりました。さらに、前号でも報告しましたが、2023年度のパラグライダー学生選手権が選手不足で中止となってしまったように、参加者が少ないと交流の場が奪われる、という悪循環も起こっています。

この状況を改善するために、まずは各イベントの日程をできるだけ早く確定させ、精力的に告知することで、みんなが予定を立てやすくしよう、また、イベントごとに学連から支給される補助金制度を周知することで、イベントを活性化させよう、という方針が決まりました。

手始めに、関東学連総会を都内にて対面で行い、総会終了後に交流会を行

うことを予定しています。

続いて、新歓についてです。主に僕が飛んでいる足尾の状況の報告となります。

足尾のサークルは、お世話になっているスクールの全面協力のもと、4月の土・日曜日に河川敷での浮遊体験と現地での体験を行い、合わせて150人以上が参加してくれました。天候に恵まれ、奇跡的に全日開催することができました。

河川敷体験会では、上級生のサポートによりハング・パラそれぞれで1m程度浮き上がる体験のほか、VRゴーグルを用いた山飛びのシミュレーションも体験してもらいました。都連の方々や、社会人のフライヤーの方にもご協力いただきました。ありがとうございました。

現地体験会では、講習斜面で上級生がサポートしながら短いフライトを体験してもらいました。また、ティクオフの見学にも行き、参加者は、パイロットが実際に飛び立つ様子を見ながら、自分が飛ぶイメージを膨らませてくれていました。

ゴールデンウィークには、実際に入部してくれた新入生と合宿を行いました。みんなで講習を受けたり、バーベキューをしたりと非常に充実した2日間で、親睦を深めることができたと思います。

コロナによる制約もほとんどなくなり、学連の活動をどんどん盛り上げていければと思っています。これからも安全に空を楽しみましょう！！

学連副理事長 浅田拓郎



新歓の体験会には150人が参加してくれた。



新歓体験会から実際に入部した新入生とGW合宿。

JHFからのお願い

■お名前・ご住所が変わったら 早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくる
JHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員
の皆さまにぜひ読んでいただきたい情
報を掲載しています。氏名や住所に変
更があったら、お手数ですが早めに
メールかFAXで事務局にお知らせく
ださい。

[お知らせいただきたいこと]

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしフライターオの仲間に転居された
方や、お名前が変わった方がいたなら
「JHFに変更の連絡をした？」と声を

かけていただけだと、たいへん助かり
ます。

■各種申し込みやお知らせ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301
TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089
E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp
https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡
はできるだけメールでお願いします。
回答が通常より遅れることがあります
が、順次対応をいたしますのでご理解
ください。

*このJHFレポートには、賛助会員か
らのお知らせを、神奈川県在住の方に
は県連盟からのお知らせも同封してい
ます。

■紙ではなくPCやスマホで JHFレポートを読みたい方に

JHFレポートは、毎号、紙に印
刷したものをフライヤー会員の皆
さま全員にお送りしていますが、
紙ではなく、PCやスマホで読み
たいという方が最近増えているよ
うです。

JHFレポートはJHFウェブサイト
でもご覧いただけます。印刷版が
不要の方は、お手数ですが、JHF
事務局までメールでご連絡くださ
るようお願いします。

JHFレポート246号

発行日：2024年（令和6年）7月30日
発 行：公益社団法人 日本ハング・パラ
グライディング連盟（JHF）
編 集：JHF事務局
印 刷：株式会社アイセレクト
本レポートの一部あるいは全部を無断で
複写複製することはご遠慮ください。

すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ WINNER BIG

上空利用可能デジタル無線機 使用のお薦め

2024年（令和6年）11月30日にアナロ
グ式簡易無線機の運用が終了することに
備えて、JHFではハンググライダーやパ
ラグライダーのフライト中に使用する無
線機として「簡易無線登録局」対応のデ
ジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル
方式の音声なので、混信もなくクリヤー
で聞き取りやすくなっています。現在の
対応機種はSTANDARD製のVX-291S、
VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-
DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-
D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにバナー
を掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル
無線機を15台保有し、フライヤー会員
に貸し出しをしています。ご希望の方は
JHFウェブサイトの「JHFのご案内」を
ご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方
は、無線機の登録手続きを済ませ利用料
を納めているか、ご確認ください。登録
をしないまま無線機を運用すると、不法
無線局として処罰の対象になります（1
年以下の懲役または100万円以下の罰
金）。お忘れのないようお願いします。

◎19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター